

2023年3月期 第2四半期

決算説明資料

2022年11月18日



証券コード
6638

JV330 Series



JFX600-2513



TS330-1600



3DUJ-2207



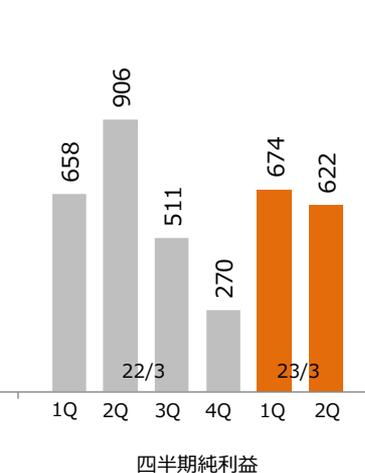
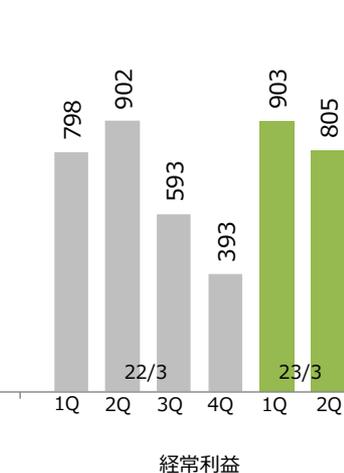
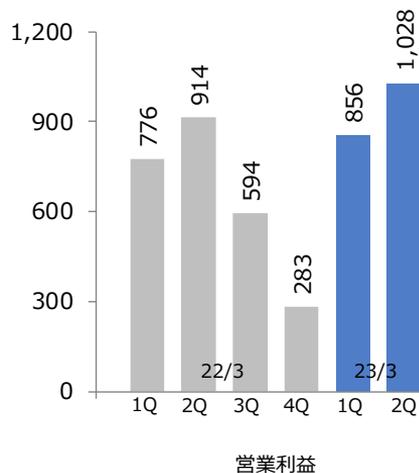
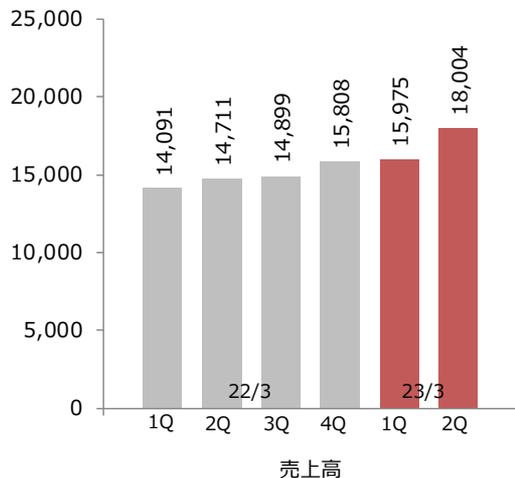
2023年3月期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 2023年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と今後の取り組み

連結業績ハイライト (2023年3月期 2Q実績)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期					
	2Q実績	売上高 比率	2Q実績	売上高 比率	前年同期比増減			
					金額	率	率(除為替)	
■ 売上高	14,711	-	18,004	-	3,292	22.4%	11.6%	
■ 営業利益	914	6.2%	1,028	5.7%	114	12.5%	-	
■ 経常利益	902	6.1%	805	4.5%	△ 96	△ 10.7%	-	
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	906	6.2%	622	3.5%	△ 284	△ 31.4%	-	
為替レート	米ドル	110.11円	-	138.38円	-	28.27円	25.7%	-
(期中平均)	ユーロ	129.83円	-	139.34円	-	9.51円	7.3%	-



連結業績のポイント (2023年3月期 2Q)



■ 2Q売上高

- 前年同期比 3,292百万円の増収(+22%、内為替影響 +1,592百万円)、概ね前回予想並み
- 1Qに引き続き部材不足や輸送リードタイム長期化の継続による影響に加え、欧州でのロシア・ウクライナ問題に伴う販売減少等の影響を受けたものの、全般に当社製品への堅調な需要が継続する中、新製品が好調なIP市場向けに加え、コロナ禍からの回復が遅れていたTA市場向けが新興国中心に販売が増加、SG市場向けも主力製品を中心に堅調に推移、FA事業の1Qからの売上シフトも寄与し、加えて全体に為替の円安によるプラス効果もあり、大幅増収

■ 2Q営業利益

- 前年同期比 114百万円の増益(+13%、内為替影響 +504百万円)、前回予想比上振れ
- コスト上昇に対応するための販売価格見直しを進めたものの、売上原価率が、販売機会損失回避を優先した部材調達によるコスト増加やエネルギーコスト高騰等により上昇するとともに、販管費が、事業・営業活動の活発化に伴い人件費、販売促進費、研究開発費等を中心に増加したが、円安効果があり、大幅増益

■ 2Q末バランスシート

- 重点指標のCCC*は、部材不足に対応した在庫確保を継続しつつ、販売の拡大、売掛債権回収の早期化、在庫削減活動等を進め、前期末比で減少

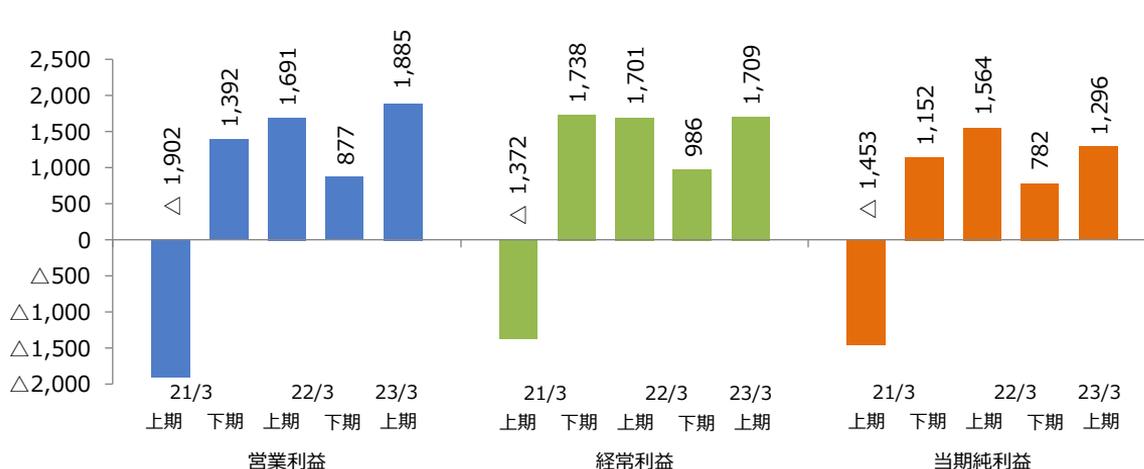
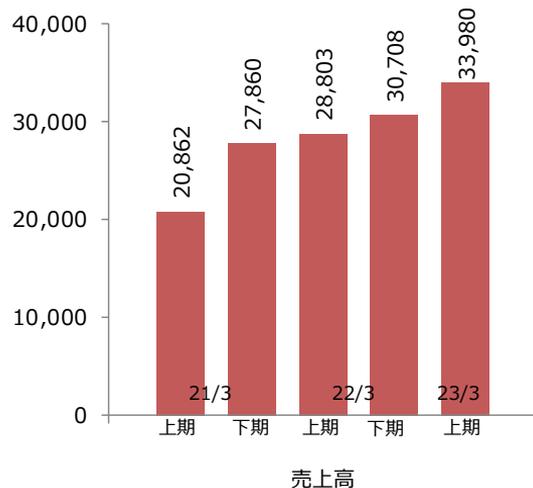
2021/9/末:4.35月→12/末:4.27月→2022/3/末:5.27月→6/末:5.50月→9/末:5.14月

*CCC : Cash Conversion Cycle

連結業績ハイライト (2023年3月期 上期実績)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期							
	上期実績	売上高比率	上期実績	売上高比率	前年同期比増減			前回予想	前回予想比増減額	
					金額	率	率(除為替)			
■ 売上高	28,803	-	33,980	-	5,176	18.0%	8.7%	34,200	△ 219	
■ 営業利益	1,691	5.9%	1,885	5.5%	194	11.5%	-	1,570	315	
■ 経常利益	1,701	5.9%	1,709	5.0%	8	0.5%	-	1,540	169	
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,564	5.4%	1,296	3.8%	△ 268	△ 17.1%	-	1,160	136	
為替レート	米ドル	109.80円	-	133.98円	-	24.18円	22.0%	-	130.29円	3.69円
(期中平均)	ユーロ	130.89円	-	138.72円	-	7.83円	6.0%	-	137.22円	1.50円



営業利益増減要因 (22/3期 上期 vs 23/3期 上期)



【通貨別影響額】

USD / 109.80円	→ 133.98円	+817
EUR / 130.89円	→ 138.72円	+257
CNY / 16.99円	→ 19.88円	△525
TRY / 12.98円	→ 7.99円	△189
BRL / 20.89円	→ 26.38円	+160
その他 (AUD、IDR等)		+261
合計		+783

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高 2,666 - 売上原価 1,236 - 販管費 647 = 営業利益 783

【売上原価率増減要因】

主に部品・原材料及び
輸送費の高騰影響

【販管費増減の要因】

販促費	321	
人件費	319	
旅費交通費	140	
製品補修費	△125	
研究開発費	120	
貸倒引当金	△99	
その他	322	
合計		999

(単位：百万円)

①為替影響

②売上高増減影響

③売上原価率
増減影響

④販管費増減影響

783

1,024

△613

△999

1,691

営業利益
(22/3)

売上原価率

59.2%

↓
61.1%
(+1.9pt)

販管费率

35.0%

↓
35.3%
(+0.3pt)

1,885

営業利益
(23/3)

営業利益 1億94百万円

市場別売上高 (2023年3月期 2Q実績)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期				構成比率
	2Q実績	構成比率	2Q実績	前年同期比増減			
				金額	率	率(除為替)	
■ S G 市場 向け	6,107	41.5%	7,066	958	15.7%	3.1%	39.2%
■ I P 市場 向け	4,012	27.3%	4,851	838	20.9%	9.9%	26.9%
■ T A 市場 向け	1,405	9.6%	1,778	373	26.5%	11.9%	9.9%
■ F A 事 業	958	6.5%	1,414	456	47.6%	47.6%	7.9%
■ そ の 他	2,227	15.1%	2,893	665	29.9%	-	16.1%
合 計	14,711	100.0%	18,004	3,292	22.4%	11.6%	100.0%

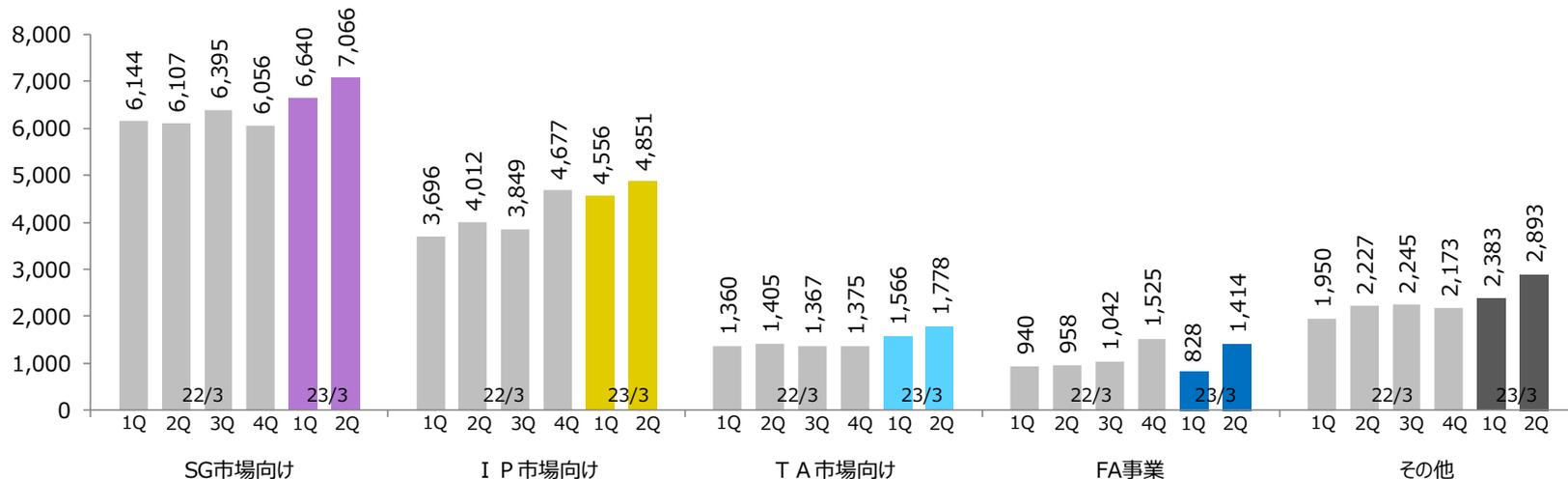
- SG市場向け: 本体は部材調達難の影響を受けたものの、エントリーモデルの100シリーズや、新製品CG-ARを投入したCuttingプロッタが好調、ミドルレンジモデルも堅調、インクも好調
- IP市場向け : 本体はラインナップを更新した小型フラットベッド機のUJF-7151plus II 及びUJF-6042Mk II eが引き続き大幅伸長、大型フラットベッド機も好調に推移、インクも大幅な販売増
- TA市場向け : 本体はエントリーモデルTS100が中南米やアジアを中心に1Qに引き続き大幅に販売を伸ばし、主力のミドルレンジモデルも堅調に推移、インクの販売も大幅に増加
- FA事業 : 景気回復に伴う設備投資需要の増加に加え、部材不足の影響で1Qから販売がシフトした案件の寄与もあり、FA装置、基板検査装置、金属加工、基板実装装置の各事業が大幅に販売増

市場別売上高 (2023年3月期 上期実績)



(単位：百万円)	2022年3月期	
	上期実績	構成比率
SG市場向け	12,252	42.5%
IP市場向け	7,709	26.8%
TA市場向け	2,766	9.6%
FA事業	1,898	6.6%
その他	4,178	14.5%
合計	28,803	100.0%

上期実績	2023年3月期			前回予想	前回予想比増減額
	前年同期比増減				
	金額	率	率(除為替)		
13,707	1,454	11.9%	1.2%	14,006	△ 299
9,407	1,698	22.0%	12.4%	9,629	△ 221
3,345	579	20.9%	8.6%	3,399	△ 54
2,243	344	18.2%	18.2%	2,415	△ 171
5,276	1,098	26.3%	-	4,749	527
33,980	5,176	18.0%	8.7%	34,200	△ 219



エリア別売上高 (2023年3月期 2Q実績)



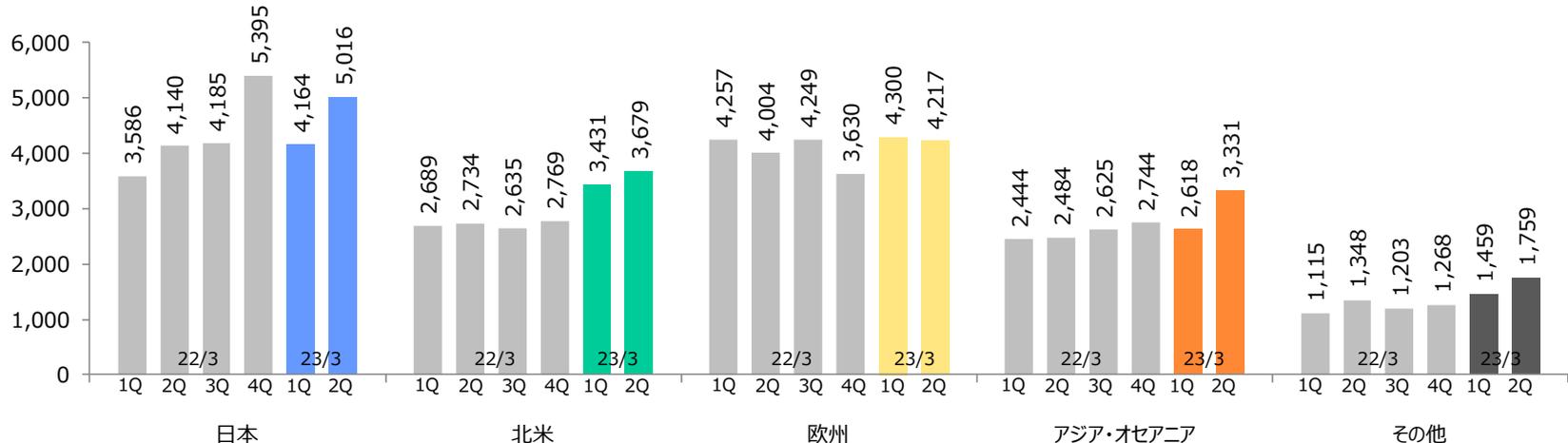
(単位：百万円)	2022年3月期			2023年3月期			
	2Q実績	構成比率	2Q実績	前年同期比増減		構成比率	
				金額	率		
■ 日本	4,140	28.1%	5,016	876	21.2%	27.9%	
■ 北米 (現地通貨 / \$)	2,734 24.8M	18.6% -	3,679 26.5M	944 1.7M	34.6% 7.1%	20.4% -	
■ 欧州 (現地通貨 / €)	4,004 30.8M	27.2% -	4,217 30.2M	213 △ 0.5M	5.3% △ 1.9%	23.4% -	
■ アジア・オセアニア	2,484	16.9%	3,331	846	34.1%	18.5%	
■ その他	1,348	9.2%	1,759	411	30.5%	9.8%	
合計	14,711	100.0%	18,004	3,292	22.4%	100.0%	

- 日本: 緩やかな景気回復の下で、IPが好調な販売を継続、FAの1Qからの案件シフトによる大幅な販売増も寄与
- 北米: インフレ進行による経済活動鈍化の影響が徐々に顕在化する中で、IP向けが新製品・既存製品とも好調に販売拡大、SG、TAは堅調に推移、インク販売も好調、為替の円安効果も寄与
- 欧州: ロシア・ウクライナ問題に伴う経済へのマイナス影響を受けたものの、ドイツ、イギリス、ポルトガル、フランス等の主要国でSG、IPが販売を伸ばし、インク・保守部品の販売も堅調、為替の円安効果も寄与
- A・O: 中国はロックダウン影響から回復しつつあるものの依然販売が伸び悩む一方、タイ、インド、インドネシア等で、好調に推移するSG、IPに加え、TAが大幅に伸長、インク販売も好調

エリア別売上高 (2023年3月期 上期実績)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期					
	上期実績	構成比率	上期実績	前年同期比増減		構成比率	前回予想	前回予想比増減額
				金額	率			
■ 日本	7,726	26.8%	9,181	1,455	18.8%	27.0%	9,245	△ 63
■ 北米	5,423	18.8%	7,110	1,687	31.1%	20.9%	7,384	△ 273
(現地通貨 / \$)	49.3M	-	53.0M	3.6M	7.4%	-	56.6M	△ 3.6M
■ 欧州	8,261	28.7%	8,518	257	3.1%	25.1%	8,493	25
(現地通貨 / €)	63.1M	-	61.4M	△ 1.7M	△ 2.7%	-	61.8M	△ 0.4M
■ アジア・オセアニア	4,929	17.1%	5,950	1,021	20.7%	17.5%	6,016	△ 66
■ その他	2,463	8.6%	3,218	755	30.7%	9.5%	3,059	159
合計	28,803	100.0%	33,980	5,176	18.0%	100.0%	34,200	△ 219



要約貸借対照表 (2022年9月30日現在)

(単位：百万円)		2022年 3月31日	2022年 9月30日	増減額	増減率
資産 の 部	現金及び預金	8,971	10,330	1,358	15.1%
	受取手形及び売掛金(※1)	10,176	11,102	925	9.1%
	たな卸資産	25,832	27,898	2,066	8.0%
	その他流動資産	2,514	2,789	274	10.9%
	流動資産合計	47,495	52,120	4,625	9.7%
	有形固定資産	10,177	11,142	965	9.5%
	無形固定資産	587	623	36	6.1%
	投資その他の資産	2,596	2,979	382	14.7%
固定資産合計	13,362	14,746	1,384	10.4%	
合計	60,857	66,866	6,009	9.9%	
負債 ・ 純 資 産 の 部	支払手形及び買掛金(※1)	9,488	9,122	△366	△3.9%
	短期借入金(※2)	14,436	19,496	5,060	35.1%
	その他流動負債	8,404	8,402	△1	△0.0%
	流動負債合計	32,329	37,022	4,692	14.5%
	長期借入金	8,432	7,034	△1,397	△16.6%
その他固定負債	1,378	1,589	211	15.3%	
固定負債合計	9,810	8,624	△1,186	△12.1%	
負債合計	42,140	45,646	3,506	8.3%	
純資産合計	18,716	21,220	2,503	13.4%	
合計	60,857	66,866	6,009	9.9%	

❖ 資産の部 +6,009

- ・ **流動資産 (+4,625)**
→商品及び製品並びに現金及び預金の増加等
- ・ **有形固定資産 (+965)**
→建物及び構築物の増加等
- ・ **投資その他の資産 (+382)**
→繰延税金資産の増加等

❖ 負債の部 +3,506

- ・ **流動負債 (+4,692)**
→支払手形及び買掛金 (+1,030)
電子記録債務 (△1,396)
→短期借入金 (+6,017)
- ・ **固定負債 (△1,186)**
→長期借入金 (△1,397)
→リース債務 (+101)

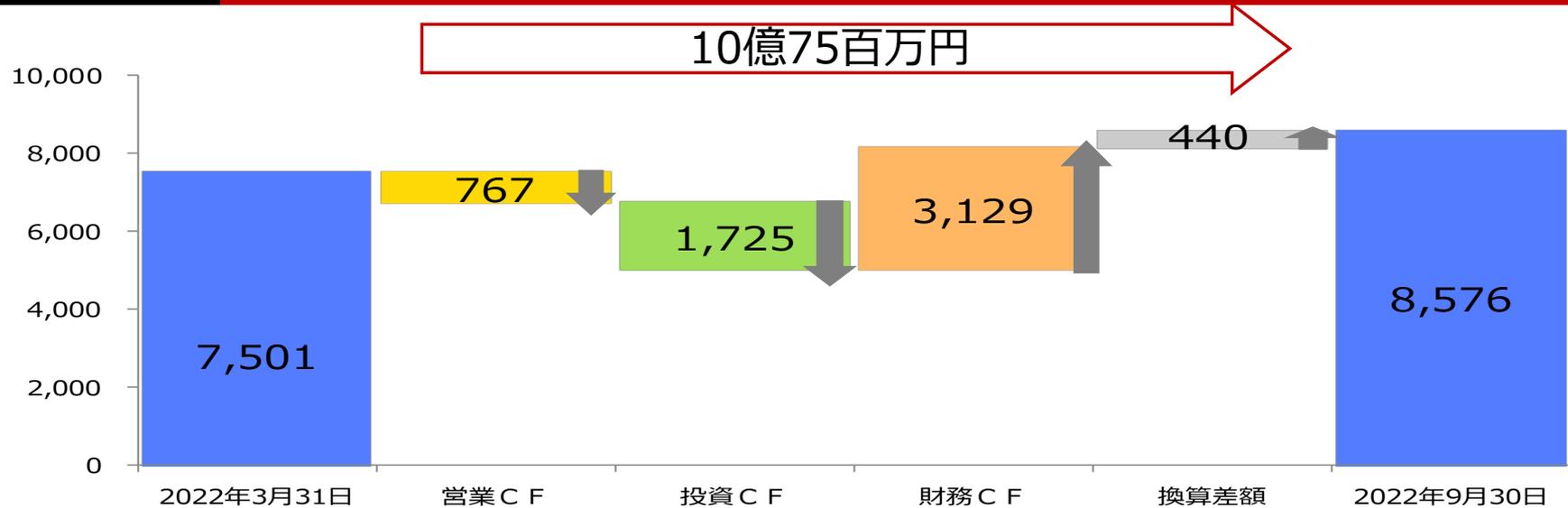
❖ 純資産の部 +2,503

- 利益剰余金 (+1,102)

(※1) 電子記録債権、電子記録債務を含む

(※2) 1年内返済予定長期借入金を含む

キャッシュ・フロー (2023年3月期 上期)



営業キャッシュ・フローの状況

EBITDA (※)	2,361
運転資金増加	△ 2,190
税金、利払等	△ 938
合計	△ 767

投資キャッシュ・フローの状況

定期預金の収支	△ 270
固定資産の取得	△ 1,572
その他	117
合計	△ 1,725

財務キャッシュ・フローの状況

短・長期借入金収支	3,458
配当金支払	△ 216
その他	△ 112
合計	3,129

(※) 利払前、税払前、償却前の営業利益

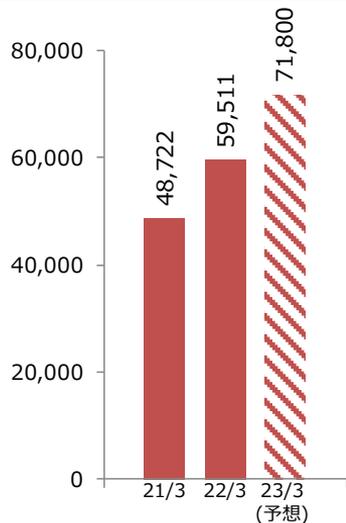
2023年3月期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 2023年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と今後の取り組み

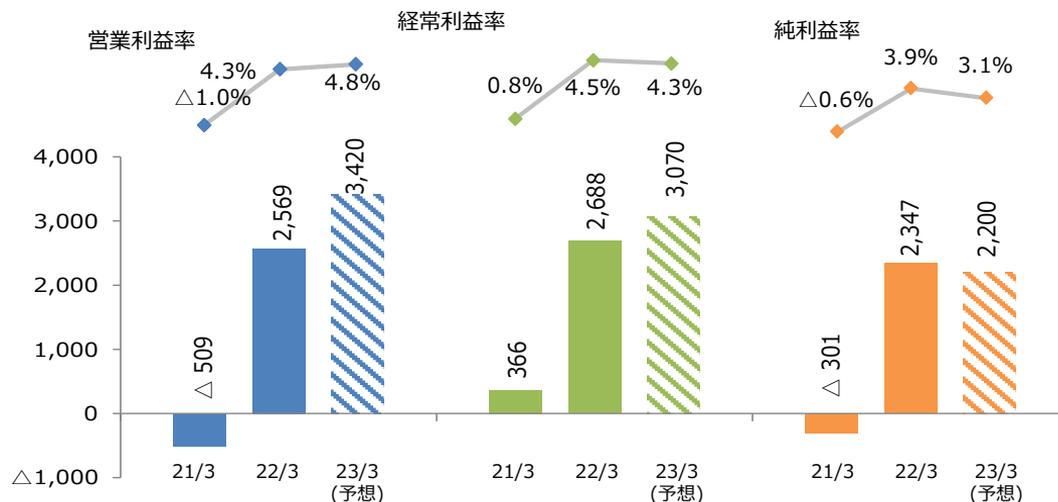
連結業績予想ハイライト (2023年3月期)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期								
	通期実績	売上高 比率	下期予想 (修正・差引)	売上高 比率	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	売上高 比率	前期比増減			前回予想比 増減額
								金額	率	率(除為替)	
■ 売上高	59,511	-	37,819	-	7,111	71,800	-	12,288	20.6%	12.3%	2,700
■ 営業利益	2,569	4.3%	1,534	4.1%	656	3,420	4.8%	850	33.1%	-	290
■ 経常利益	2,688	4.5%	1,360	3.6%	373	3,070	4.3%	381	14.2%	-	50
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	2,347	3.9%	903	2.4%	120	2,200	3.1%	△ 147	△ 6.3%	-	30
為替レート (期中平均)	米ドル 112.38円	-	135.00円	-	20.04円	134.49円	-	22.11円	19.7%	-	14.35円
	ユーロ 130.56円	-	135.00円	-	4.77円	136.86円	-	6.30円	4.8%	-	3.25円



売上高



営業利益

経常利益

当期純利益

■ 連結業績予想の前提

① 売上高

- 部材調達難による製品供給面での制約が一部のエリア・製品で残るとともに、輸送リードタイム長期化の継続による影響を見込む
- 製品ラインナップ強化により、SG、IP、TAの各市場において顧客からの堅調な需要が継続する見通しであり、営業活動の一層の強化により製品在庫を着実に販売につなげる

② 営業利益

- 部材・エネルギーコスト等の高騰が徐々に解消に向かう従来の前提を、下期を通じて影響を受ける見通しに変更したことに伴う売上原価率の悪化に加え、急激な為替の円安による円換算後の海外子会社における販管費の増加を見込む

③ 下期の為替レート前提は、USD:135円/EUR:135円/CNY:19.8円で設定

- 「Mimaki V10」で定めた2025年度までに営業利益率10%達成の目標は堅持しつつ、地政学的なリスクへの対応に万全を期すと共に、下期も経営の土台固めに向け、全社をあげて取り組む

営業利益増減要因

(22/3期 実績 vs 23/3期 予想)



(単位：百万円)

【通貨別影響額】

USD	112.38円	→	134.49円	+1,615
EUR	130.56円	→	136.86円	+542
CNY	17.51円	→	19.84円	△609
TRY	11.23円	→	7.48円	△285
BRL	21.11円	→	25.24円	+260
その他 (AUD、IDR等)				+339
合計				+1,863

<為替感応度 (1円/年)>

	売上高	営業利益
USD	143	73
EUR	131	86

【売上原価率増減の要因】

主に部品・原材料、輸送費高騰の影響を見込む

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高4,972 - 売上原価2,003 - 販管費1,105 = 営業利益1,863

① 為替影響

② 売上高増減影響

③ 売上原価率増減影響

④ 販管費増減影響

1,863

2,931

△1,586

売上原価率

59.9%

↓

62.3%

(+2.4pt)

△2,358

販管費率

35.8%

↓

35.4%

(△0.4pt)

2,569

3,420

営業利益
(22/3期)

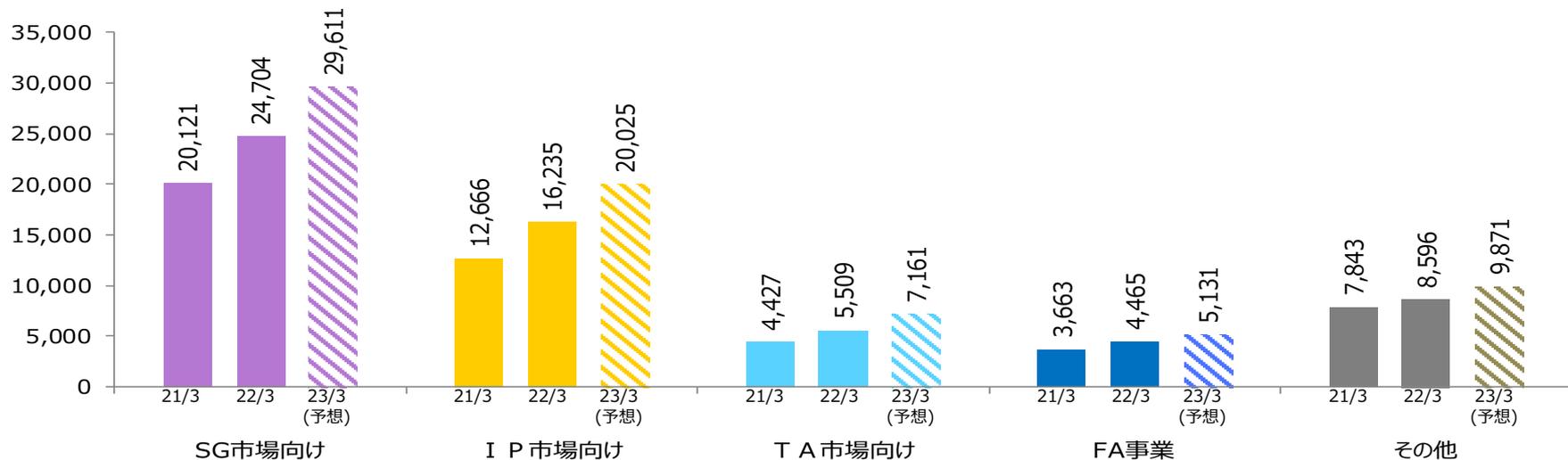
営業利益
(23/3期)

営業利益 8億50百万円

市場別売上高予想 (2023年3月期)



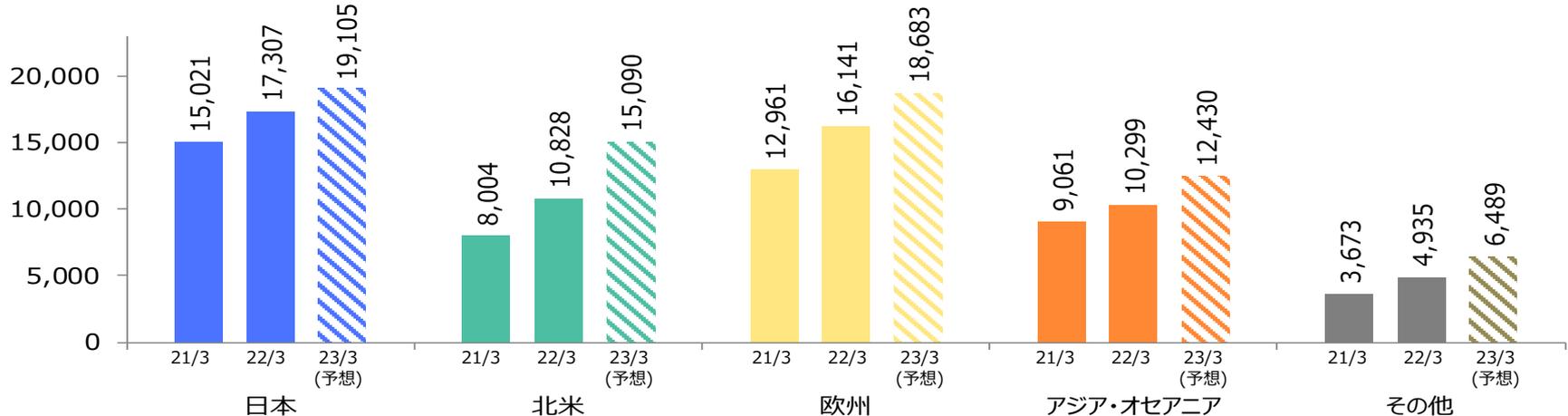
(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期							
	通期実績	構成比率	下期予想 (修正・差引)	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減			構成比率	前回予想比 増減額
						金額	率	率(除為替)		
SG市場向け	24,704	41.5%	15,903	3,452	29,611	4,906	19.9%	9.9%	41.2%	909
IP市場向け	16,235	27.3%	10,617	2,090	20,025	3,789	23.3%	15.1%	27.9%	1,082
TA市場向け	5,509	9.3%	3,815	1,072	7,161	1,652	30.0%	18.1%	10.0%	△ 52
FA事業	4,465	7.5%	2,888	320	5,131	665	14.9%	14.3%	7.1%	△ 400
その他	8,596	14.4%	4,594	175	9,871	1,274	14.8%	-	13.7%	1,160
合計	59,511	100.0%	37,819	7,111	71,800	12,288	20.6%	12.3%	100.0%	2,700



エリア別売上高予想 (2023年3月期)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期						
	通期実績	構成比率	下期予想 (修正・差引)	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減		構成比率	前回予想比 増減額
						金額	率		
■ 日本	17,307	29.1%	9,923	342	19,105	1,798	10.4%	26.6%	40
■ 北米 (現地通貨/\$)	10,828 96.3M	18.2%	7,979 59.1M	2,574 12.1M	15,090 112.2M	4,261 15.8M	39.4%	21.0%	1,270 △ 2.9M
■ 欧州 (現地通貨/€)	16,141 123.6M	27.1%	10,165 75.1M	2,285 14.6M	18,683 136.5M	2,542 12.8M	15.7%	26.0%	1,264 6.0M
■ アジア・オセアニア	10,299	17.3%	6,480	1,110	12,430	2,131	20.7%	17.3%	△ 110
■ その他	4,935	8.3%	3,270	799	6,489	1,554	31.5%	9.0%	234
合計	59,511	100.0%	37,819	7,111	71,800	12,288	20.6%	100.0%	2,700

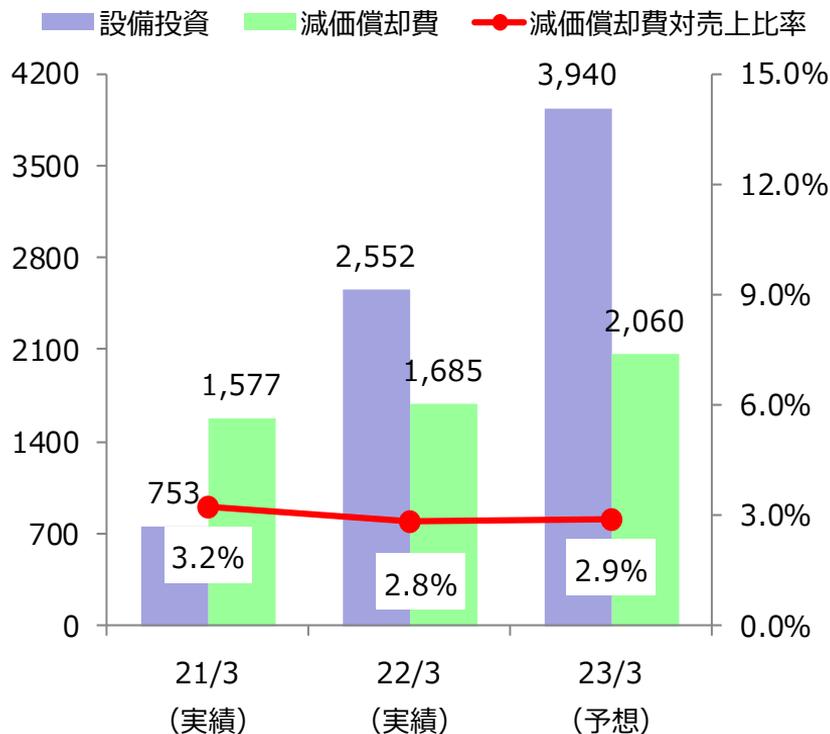


設備投資、減価償却、開発投資予想 (2023年3月期)

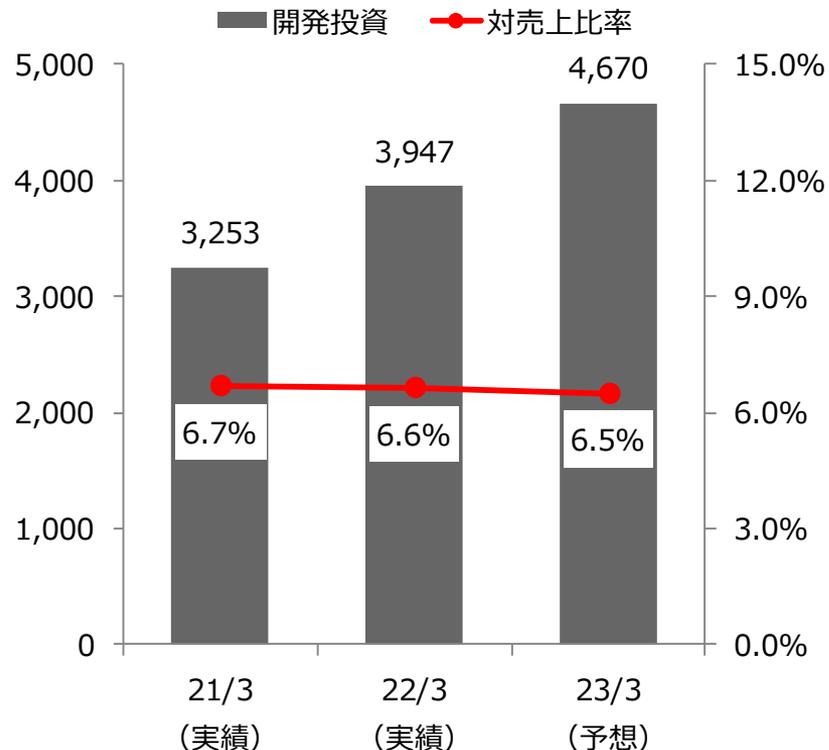
(2023年3月期)



(百万円)



(百万円)



※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

株主還元

株主還元の方針

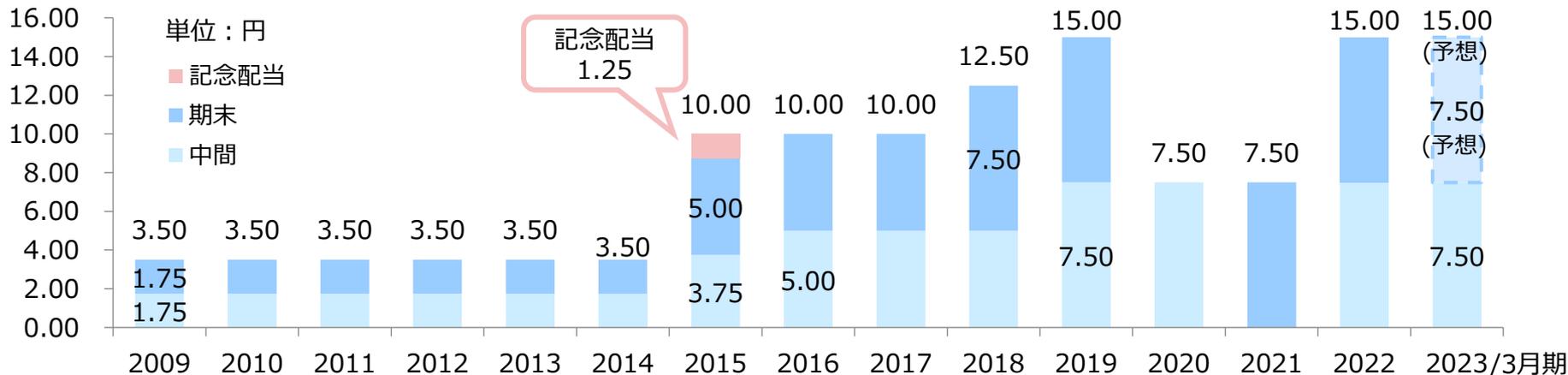
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としています

■ 2022年3月期 中間：7.5円、 期末：7.5円

業績の回復状況及び安定的・継続的な株主還元方針に基づき、年15.0円を配当

■ 2023年3月期 中間：7.5円、 期末(予想)：7.5円

当期の事業見通し及び安定的・継続的な株主還元方針を総合的に勘案し、年15.0円配当を予想



※ 2015年3月期の記念配当は東証一部上場に係るものであります

※ 2015年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております（分割前の配当金は訴求修正して表示）

2023年3月期 連結業績

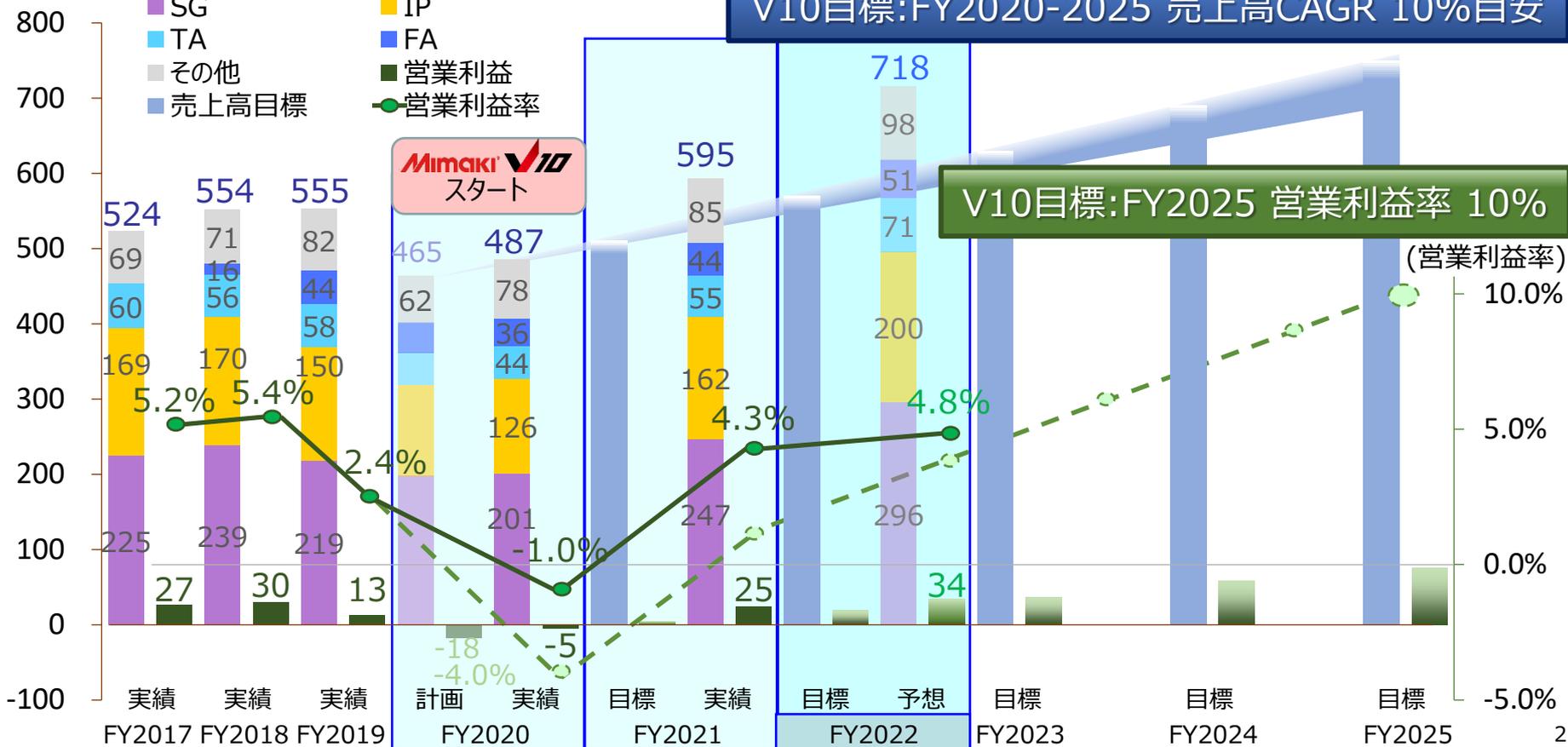
- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 2023年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と今後の取り組み

Mimaki V10の進捗



(単位：億円)

- SG
- TA
- その他
- 売上高目標
- IP
- FA
- 営業利益
- 営業利益率



売上高は順調な進捗

成果

- イノベーションを起こす製品開発への取り組みによりSG/TA/IP市場向け製品ラインナップを短期間で強化・充実

課題

- 部材調達難や輸送リードタイム長期化により製品供給面での制約を受け販売機会損失が発生

対応

- 調達・生産・営業の各機能強化によりタイムリーに製品を供給
- 更なる製品力の強化→高付加価値製品の開発・投入を継続

収益性改善は道半ば

成果

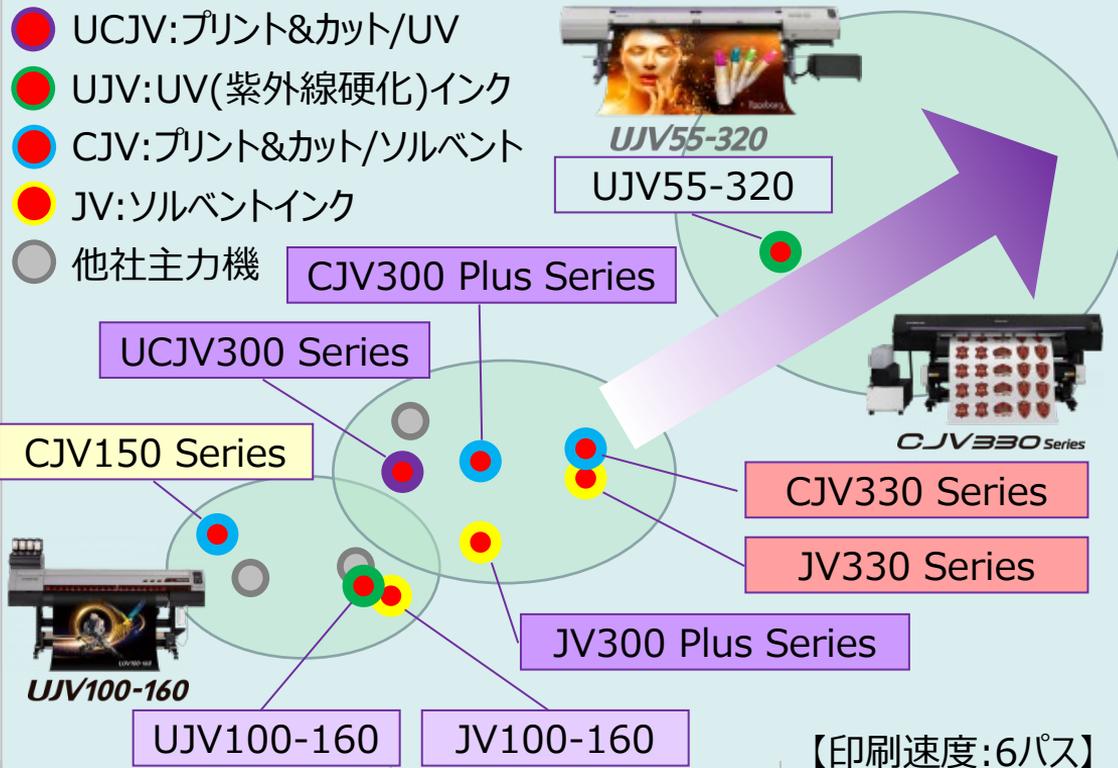
- 高付加価値製品投入により今後の収益性改善に手応えを得た一方で品質問題に起因する費用の削減への取り組みは道途上

課題 ・ 対応

- 品質問題の見える化とより効果的な対策を着実に進める
- 調達力強化・サプライチェーン見直しへの取り組みを継続
- 地政学的リスクへの適切な対策

SG(サイングラフィックス)市場向け製品ラインナップ

充実したラインナップと差別化技術で先行



あらゆる顧客ニーズに対応

- ✓ エントリーからミドル・ハイエンドまで幅広い市場・用途・ニーズに応じてお選びいただける充実した製品ラインナップ
- ✓ ソルベントからUV硬化まで印刷の目的に合わせて選択できる豊富な機能性インク
- ✓ 高画質を実現するため長年に渡り蓄積したソフトウェア技術

今後は一層の高生産性領域にラインナップ展開を進める

高い基本性能と付加価値で先行

- 高画質、高生産性、使いやすさを提供
 - ✓ 高剛性筐体と高精度インク滴コントロールの優れたメカ技術で正確なインク着弾による高画質を実現
 - ✓ MWDT (Mimaki Weaving Dot Technology) や DAS (Dot Adjustment System) 等のソフトウェア技術による圧倒的な高画質の提供
 - ✓ 印刷の高速化により短納期での受注にも対応し顧客のビジネスを支援
 - ✓ X軸Y軸枚葉カットで後工程の作業を短縮するXYスリッターや、ロールメディア交換作業を効率化するメディアチェンジャー(JV/CJV330)
- より高速な印刷で一層の高生産性を実現する製品の開発・提供



屋外看板



ポスター

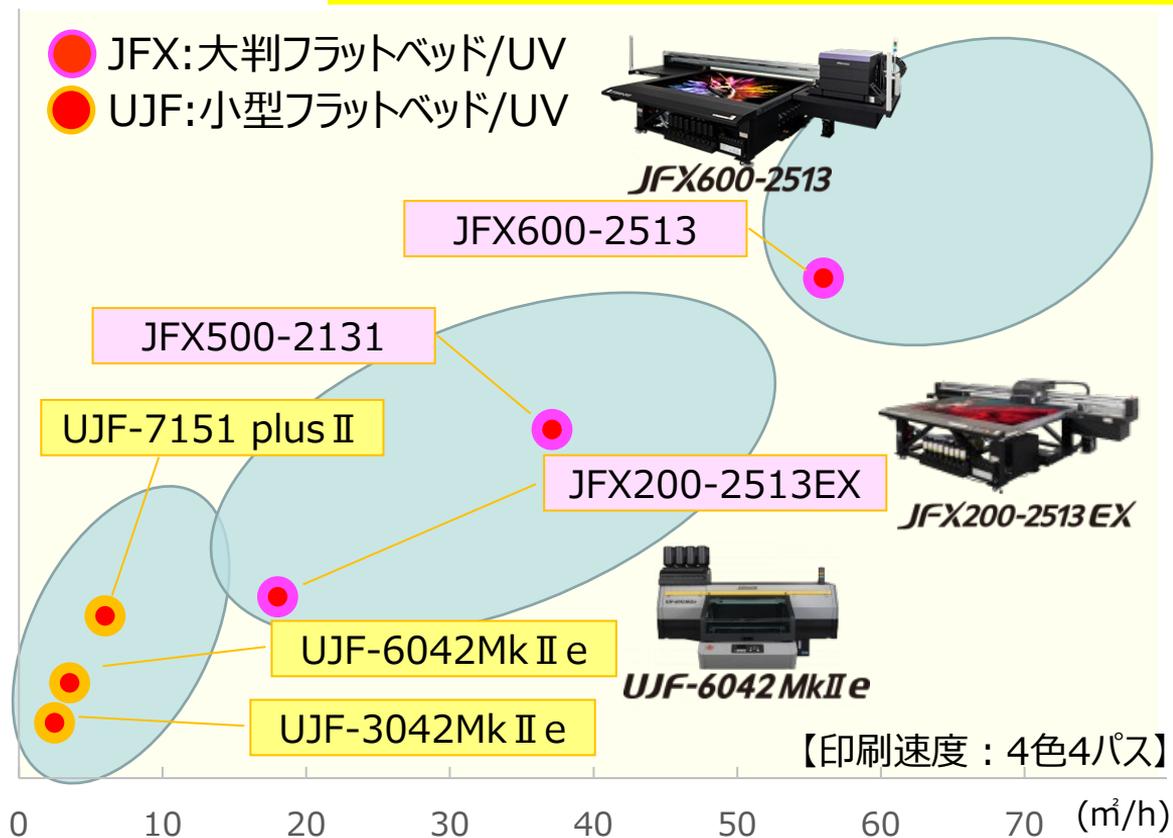


電飾看板



バナー

市場の先駆者として多様な用途開拓をけん引



デジタル化により市場を創出

スクリーン印刷/パッド印刷



ミマキのUVフラットベッドプリンタで
デジタル印刷へシフト



今後は新たな製品アプローチで
より高精細・高付加価値な
新規市場開拓を進める

UVインク技術を生かした市場開拓・拡大

- ヘッドの特長を生かして幅広い顧客ニーズに対応
 - ✓ 各社が提供するIJヘッドを市場・用途・ニーズに応じて使い分け最適に制御するインクジェット技術
- 多種のインクで多様なメディアに多品種少ロット印刷
 - ✓ 低消費電力で環境に優しいLED光源UV照射技術
 - ✓ ホワイト、メタリック、クリア等多種のUV硬化インクによりアクリル、プラスチック、ガラス、金属、木材、皮革等の多様なメディアに高画質ダイレクトプリントを実現
 - ✓ 工業製品からノベルティまで幅広い用途に展開
- 新たな製品アプローチによる新規市場開拓
 - ✓ 商業印刷の多角化によるニーズの多様化を捉えた大型UVフラットベッドプリンタによる新規市場開拓



腕時計バンド



操作スイッチ



ノベルティ



特殊形状看板



家具

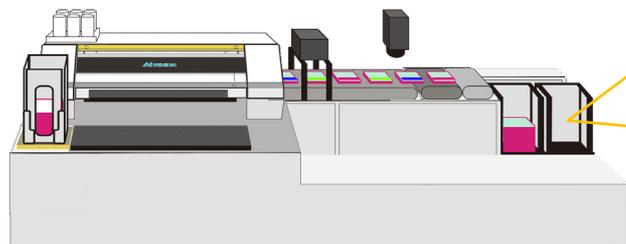
大型UVフラットベッドプリンタを核により幅広い市場展開へ



JFX600-2513

デジタルオンデマンド・プリントソリューションのご提供

- ミマキプリントエンジンとFA機器の連携によるオートメーションシステムの構築をサポート
- プリント/カット/コート工程の自動化による省人化・無人化を実現する製品・ソリューションを提供



搬送・検査ユニットとの連動

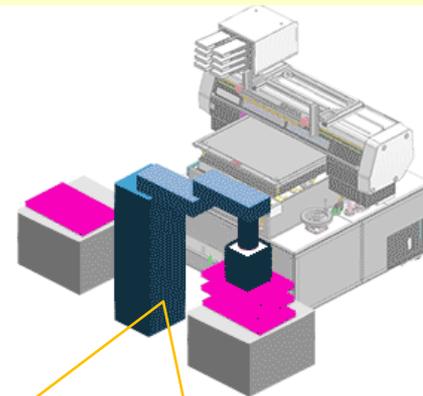
印刷素材を自動でプリンタに配置、印刷後に搬出し検査工程を経て格納マガジンへ収納。プリンタの待機時間を抑えた高い生産効率を実現。

Mimaki ALPHA™
...: Spray-Jetting
DCF-605PU



デジタルコーティングマシン

スプレー方式でトップコート剤を超薄膜塗布し均一膜厚でのコーティングが可能。印刷物への新しい付加価値を提供。



ロボットとの連動

プリンタへの印刷素材セットを無人化。印刷工程の自動化・省力化・省人化を実現し、プリンタの稼働率も向上。

フルカラー3Dプリンタによる新市場の創出

- UV硬化インクジェット方式で1,000万色フルカラー3D造形という特徴を生かした用途・市場開拓により、3Dプリンタを将来の新たな事業の柱として育成

フラグシップモデル



3DUJ-553 (税込2,086万円)

- 世界初の1,000万色フルカラー造形を実現
- ピュアクリアインクによりガラスやアクリルのような透明感ある表現

エントリーモデル



3DUJ-2207 (税込423万円)

- 低価格でも3DUJ-553と同等の色数と造形精度を発揮
- 省スペースを実現しオフィスでも高精細3D造形を可能に



建築・設計



研究・医療



試作・見本



文化財複製



フィギュア

市場の変化を捉えたデジタルプリントの拡大

- Tiger: 高速生産機/ダイレクト捺染or昇華転写
- TX: ハイブリッド機/ダイレクト捺染&昇華転写
- TS: 昇華転写

Tiger-1800B MkIII



Tiger-1800B MkIII

Tx300P-1800B



Tx300P-1800MkII

Tx300P-1800MkII

TS330-1600



TS330-1600

TS55-1800

TS100-1600



TS100-1600

【印刷速度：4色4パス】

0 20 40 60 200 210 (m/h)

生産地のデジタル化を支援

- ✓ 賃金上昇・人材不足・環境規制対応に最適なデジタルプリントでローコスト・安定稼働システムを提供

消費地のデジタルオン・デマンドプリント需要への対応

- ✓ エントリーモデルの導入拡大で市場ニーズに対応
- ✓ ミドル・ハイエンドモデルの高画質・生産性に加え低ランニングコストの訴求で顧客の導入を加速

取り組み ① 品質レベルの改善

- 品質改善を最優先事項とし、プロジェクト体制で推進、品質コスト低減への取り組みを継続
- インク品質改善の取り組み強化
 - ✓ 不具合要因特定のための原材料受入・製造・出荷までの検査データ蓄積と分析評価を強化
 - ✓ 生産工程から検査工程までの各段階での工程見直しを実施
- 市場品質情報の管理、対策までのプロセス改善による顧客品質の向上
- 生産品質向上に向けた工程改善活動を強化

取り組み ② 調達力強化、サプライチェーン見直し

- 活発な需要に応じて機会損失を最小化するオペレーションを継続
- サプライチェーン改革による定時定量送り込み実現に向け、プロジェクト体制で推進
- 海上輸送業者との契約見直しにより輸送費の削減を進める
- エリア在庫効率化を目的としたNRI (Non-Resident Inventory) 倉庫を欧州(オランダ)に続きアジア・オセアニア(マレーシア)も運用を開始、運用効果の最大化に向け活動を継続

取り組み ③ CX(コーポレート・トランスフォーメーション)

- 管理会計・経営管理の仕組みの土台からの見直し
 - ✓ 新規システム導入を前提に、発注方法の見直しまで含めた仕組みを検討
- 業務の標準化・ルールの明確化による管理体系の整備
- CCCは部材不足・在庫積上げ・リードタイム長期化を踏まえ、売掛金回転期間を滞留売掛金中心に管理

CCC	2021/3末	2021/6末	2021/9末	2021/12末	2022/3末	2022/6/末	2022/9/末
実績推移	3.60月	4.22月	4.35月	4.27月	5.24月	5.50月	5.14月

- ✓ 調達最優先・機会損失回避のオペレーションを行いながらもCCCは前期末比で改善傾向

取り組み ④ 営業の改革

- リアルミニ展の開催復活に合わせ、幅広い製品ラインナップとアプリケーションの拡大を訴求してチャネル・顧客開拓と販売の拡大に繋げる
- エントリー機、カッティングプロッタ、プロダクション機等のチャネル開拓を強化

本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

I R 部

TEL (本社) 0268(80)0058

TEL (東京) 03(6362)4290

E-mail mimaki-ir@mimaki.com

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング（以下、当社）を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。